



スタートアップでの危険要因

2005年12月

多数の化学設備がスタートアップ作業の中で悲惨な事故を起こしてきた。多くの場合、これらの事故は決まった通常の操作で必要とされるよりも高度の注意と配慮が必要であることを示している。何故か？ スタートアップの危険要因は曖昧な運転指示、スタートアップ操作の経験不足、そして通常状態でないプラント—例えば、空の供給タンク、間違った開閉状態の手動弁、新しい或いは変更された機器によって増大される。

プラントを運転状態に戻す時間的要求の圧力は強いだろうし、おそらく運転員たちはシャットダウン期間中に長時間働いてきたことで注意力が低下しているだろう。多くのプラントではスタートアップ時には手動操作が必要になる。連続運転のプラントではスタートアップがたまにしかないために、プラントの人たちは要求される処置についての経験はほとんどない。

知っていますか

- 米国化学物質安全性・有害性調査委員会 (CSB)によって1998年以来調査された38の主な事故の内、3件が連続運転設備のスタートアップ時に起きたものである。
- これら3件の事故は22名の死者と170人以上の負傷者を出す結果となった。
- 他の深刻な事故はバッチプロセスのスタートアップ時や停電に続く保全作業中に起きている。
- スタートアップは稀なことなので、復習訓練が必要だろう。



PSID メンバーはフリーサーチでStartupを見よ

あなたにできること

- 完成した正確な文書化された手順書とチェックリストを備え、そしてそれを**使用すること**。
- いかなるスタートアップ手順を変更する場合も、事前に変更管理による見直しを実施すること。
- 自分にとって馴染みのないスタートアップ操作については質問し、援助を得ること。
- 責任ある人達と共に、停止時の処置は完了したことと機器使用が承認されていることを確認すること。
- 大規模保全や設備変更の後には、スタートアップ前安全審査を含めて、スタートアップ迄に機器の機能と設置状態を確認すること。
- 全てのバルブが正しい開閉状態か確認すること。
- 現場操作と制御室の間の良好なコミュニケーションを維持すること。



スタートアップ時の安全が完了するよう計画すること!